

平成28年度 学校評価実施報告書

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(1回目評価を踏まえた)年度末までの取組	(取組結果を検証する)アンケート項目・各種指標
確かな学力	授業改善	・各教科における言語活動の充実(発表のスキルや何を問われているかを丁寧に指導する) ・年3回の授業研究	・生徒の話す・聞くなどの態度の変容 ・授業中に発表する機会が増え、根拠を述べて自分の考えを発表できたか
	家庭学習の習慣化	・学校だよりや学級通信などによる啓発活動(学習の定着には家庭学習が必要であることを伝える) ・グレクティ教材の有効活用	・家庭で平日に、平均どれくらい学習していますか
	書く力の育成	・国語の授業や交流の時間などで、作文・日記・詩・俳句、漢字の読み書きなどの課題を設定	・課題の作文・日記・詩・俳句の内容の変容、また、漢字の読み書きプリント達成度
豊かな心	「公共の精神」に基づく態度の育成	・道徳の時間や学級活動などで、話し合いや協力の場を、意図的・計画的につくる ・登下校時に校門で挨拶運動を実施(夜間部の下校時は全教職員で実施)	・友達や家族を大切にしていますか ・挨拶時の会話や表情から、充実した学校生活を送っているか
	人権の大切さを考える活動	・人権標語入りカレンダーの作成と地域への配布	・人権の大切さを表現しているか ・地域に役立っていると感じているか
健やかな体	自他を大切に する態度の育成	・常に寄り添いながら、基本的な生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん)の確立に向けての働きかけ	・早寝・早起き・朝ごはんなど規則正しい生活はできていますか
	健康観察の励行	・毎日、養護教諭と担任が連携して、健康観察の実施	・心身両面における変化の把握
独自の項目	昼・夜間部の交流の時間の充実	・昼・夜間部合同の小グループをつくり、貼り絵・花文字・栽培活動などの実施	・昼・夜間部の交流により、昼間部生徒は学びのエネルギーの、夜間部生徒はアイデンティティの、向上に結びついているか

⇒

自己評価		
評価日		平成29年3月3日
評価者・組織		校長・運営委員会
アンケート結果・各種指標結果	分析(成果と課題)	分析を踏まえた改善策
「先生の問いかけに発表する機会が増えた」生徒の割合が、昼間部58%→93%、夜間部69%→80%になった。	昼間部では、気兼ねなく発表できる仲間づくりや発表のスキルが向上した。夜間部では、問いの意味を丁寧に伝えることができた。	一過性に終わらせるのでは、常日頃の授業の中で、継続的に発問の工夫を行い、生徒の主体的な思考に基づく発表の機会を増やしていく必要がある。
「家庭学習をしている」昼間部生徒は50%→72%、保護者は36%→40%であった。夜間部はこの項目がない。	受験を控えた3年生を中心に生徒は「している」との認識が増えたが、保護者はそこまで「している」とは感じていない結果になった。	学習空白を乗り越え、授業がわかりだすと、学習への関心・意欲が高まり、家庭学習への契機になると考える。さらなる授業改善を促進する。
各教科・領域でワークシートを工夫し、生徒の考えや思いを書く学習活動が増えた。漢字の学習は日々着実に取り組んだ。	昼・夜間部共にワークシートの改良により書くことへの抵抗が減っている。漢字の学習は日々着実に取り組み、成果を上げている。	各教科・領域でねらいをもって取り組み、自分の考えや思いを書かせることができることがわかった。今後も計画的・継続的に取り組んでいきたい。
「道徳の時間は自分のためになっている」生徒の割合は、昼間部・夜間部とも微減した。	夜間部は学校行事と関連づけて、道徳の時間に取り組んだことが功を奏している。昼間部は時間数のこともあり、計画的に実施できていない状況である。	夜間部は現在の道徳の時間をさらに充実させる。昼間部は時間を捻出し、計画をしっかりと立て、生徒の状況に応じた道徳の時間を実践していく。
「学校の雰囲気がよく安心して通える」昼間部75%→84、夜間部83→100%であった。人権標語入りカレンダー作りを実施した。	昼・夜間部共に、お互いの生き方や価値観の違いを認め合い、人として尊重し合い、支え高め合うことができていると判断している。	今後もすべて教育活動の場面で、人権の大切さを意識した働きかけを行っていく。人権標語入りカレンダー作りを今後も計画的に実施していく。
「規則正しい生活を送っている」生徒の割合は、昼間部42%→84%、夜間部73%→80%であった。	昼間部は教員の働きかけにより保護者と協力して取り組んだ成果が現れている。夜間部も規則正しい生活が送れている。基本的生活習慣の確立を目指す。	昼間部において、教員のねばり強い働きかけで、規則正しい生活ができるようになってきたが、油断せず継続して取り組んでいく必要がある。
「先生は親身になって相談にのってくれる」生徒の割合は、昼間部91%→79%、夜間部100%→100%であった。	昼間部生徒の内面に寄り添うことは容易なことではないが、ねばり強く実践していく必要がある。養護教諭と担任の健康観察は良くてきている。	精神的不安を抱える生徒にねばり強く寄り添っていく。今後も、見逃しのない健康観察と、心の通った適切な対応を徹底していく。
「交流の時間」の学習内容(貼り絵など)は楽しい。生徒の割合は、昼間部83%→82%、夜間部88%→100%であった。	昼・夜間部の交流の時間を意図的・計画的に取り組んできた結果、生徒にとって楽しみな活動になっている。今後もより良く推進していきたい。	昼・夜間部混合の小グループで取組は、両者の自尊感情を高める上でも効果的な教育活動であるので、今後も意図的・計画的に実施していく。

学校名(京都市立洛友中学校)

学校関係者評価	
評価日	平成29年3月15日
評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・ 学校評議員による 改善に向けた支援策
昼間部・夜間部共に、先生が生徒に良く寄り添い、丁寧な指導・支援ができています。是非、このような取組を継続してほしい。	茶道やストレッチなどように、地域にはエキスパートがいるので、今後も依頼があれば授業に役立つ協力をしたい。
夏休みや休日に学校へ来て、学習に励んでいる生徒がいる。先生方の生徒への思いが伝わっていることを素晴らしいと思う。	日々先生方の心の通った指導が実を結び出している。生徒が主体的に家庭学習に取り組めるように、今後も先生方に協力していきたい。
昼・夜間部共に各教科・領域で書く力を高めることができている。今後もこのような学習活動を継続して取り組んでほしい。	学校だよりに載せていただいた夜間部の作文や詩は、心に響くものであった。地域への配布を通して、生徒の自尊感情が高まっていると感じている。
より良い生き方につながる道徳の時間を今後も充実させてほしい。昼間部は来年度の計画を練り、生徒の実態に応じた道徳の時間に取り組んでほしい。	人の役に立つ生き方を推奨しているが、生徒の道徳的心情や実践意欲を養うことに協力できることがあればさせてもらうつもりである。
昼・夜間部生徒の姿から、人権を大切にした教育活動を実施していることがよく伝わってくる。人権標語入りカレンダーの配布を今後も楽しみにしている。	洛友中学校の人権を大切にしたい教育活動を地域の方々に伝えていきたい。人権標語入りカレンダーの配布、有り難うございました。
教員の保護者への働きかけが功を奏していることを素晴らしいと思う。基本的生活習慣の確立に向けて、継続的に取り組んでほしい。	基本的生活習慣の確立に向けての取組を応援しているので、我々ができることがあれば連絡をほしい。
昼・夜間部共に、心身に課題のある生徒が多く在籍しているが、先生方の取組に敬意を表する。今後も生徒のために頑張ってもらいたい。	健康観察の励行で生徒の健康管理に対する意識が高まっていることがわかる。校医や関係機関との連携において、必要な協力をしていくつもりである。
本当に世代や国籍を超えてふれあい学び合っている様子がよく伝わってくる。今後も両者に効果がある交流を推進してほしい。	昼間部生徒の人間性や社会性の伸長につながっていることや夜間部生徒の自尊感情の向上につながっていることを、地域に伝えていきたい。

3 総括・次年度の課題

- ・各教科・領域で発問の工夫、発表のスキルの指導や丁寧な問いかけなどがなされ、生徒の発表が増え、主体的・対話的な学びにつながっている。今後は保護者と連携して、家庭学習の習慣化に向けて取り組んでいきたい。
- ・人生経験豊富で包容力のある夜間部生徒と、人間関係を構築していく過程で、昼間部生徒の人間性や社会性が伸長している。そのことにより夜間部生徒の自尊感情も高まっている。今後も人権を大切にしたい教育活動を実施していく。
- ・昼・夜間部共に心身に課題のある生徒が多い中で、養護教諭と担任が連携した健康観察が、自律的な健康管理につながっている。今後も、生徒に寄り添い、継続して見逃しのない健康観察と心の通った適切な対応を徹底していく。
- ・不登校を経験した昼間部生徒と様々な事情で義務教育を修了することができなかった夜間部生徒が、相乗効果を上げながら共に学ぶ本校の存在意義を、生徒や保護者、地域の方々や教育関係者によりよく発信していく。